

雑司が谷旧宣教師館だより

第23号
2002年3月1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎/FAX(03)3985-4081

雑司が谷の謎

○雑司ヶ谷霊園には夏目漱石、小泉八雲、島村抱月、竹久夢二、成瀬仁蔵などの著名人の墓が多いのはどうして？

○大正時代、雑司ヶ谷は文化村だったの？

今となっては当たり前のことや反対に痕跡すらないもの、また語りぐさとして伝え聞いているが本当はどうなんだろう、など日頃気になっていることってありませんか。もっと地域を知りたい！地域の歴史を学びたい！そんな人により広く！より深く！
地域のことを学ぶ

雑司ヶ谷学事始め

昨年12月より、開講しました。（詳細は右記）
参加者の感想です。今年はあなたもどうぞ！

◆夏目漱石の大ファンである私にとって、雑司が谷は興味深い土地です。巣鴨から雑司ヶ谷墓地まで時々ウォーキングして漱石の墓に詣めます。漱石は晩年散歩の途中、秋田雨雀と出会った時、「今度僕は雑司ヶ谷に墓地を買ったから、死ぬと君の近くに行くことになるよ」という意味のことを立話で言ったと、雨雀が書いています。雨雀の奥さんは多兎先生もおっしゃったように漱石の養母・やすの娘です。いろいろ興味は尽きません。

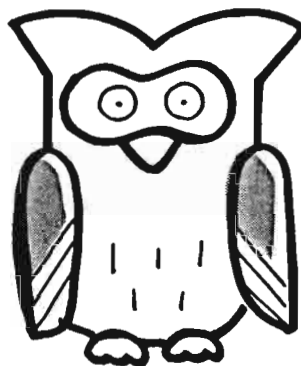
小森陽一少年の日本帰国の際のカルチャーショックのお話、とても面白かったです。「こころ論争」のお話、もう少し詳しくお聞きしたかったです。（巣鴨, 52歳, M・Yさん）

◆小森先生のお話は具体的で面白かった。皇室も郷里を捨てて江戸にのぼられた話に、郷里を捨てた私は変に納得した。内容が良く友達とのおしゃべりによい雑学であった。

お墓の一つずつお話が聞きたい。地域のこと

が分かってうれしい。年に2～3回聞かせてほしい。（雑司が谷, 72歳, H・Uさん）

◆雑司が谷は古い歴史があるとは知っていましたが、今回の企画で驚くほどの物語があり感激しました。自分の住んでいる処ですので、小森・多兎両先生のお話に引き込まれてしまいました。何百年も続いて今に至った土地、木、風景在りし日の名のある人々のお墓を歩き感懐にふけりました。（雑司が谷, 67歳, M・Tさん）



秋田雨雀は「雑司が谷のフクロウ」と呼ばれた。

◆昭和10年頃まで上り屋敷付近に居住していましたので子供の頃の雑司が谷は遊び場でしたが記憶が薄らぎつつあります。この企画を通して当時を再現し正しく理解したく参加しました。またその変化がどのような経過を辿ったかを知りたいと思います。〇〇文士村の構想と同じように雑司ヶ谷文士村をお願いします。（文京区白山, 69歳, Y・Tさん）

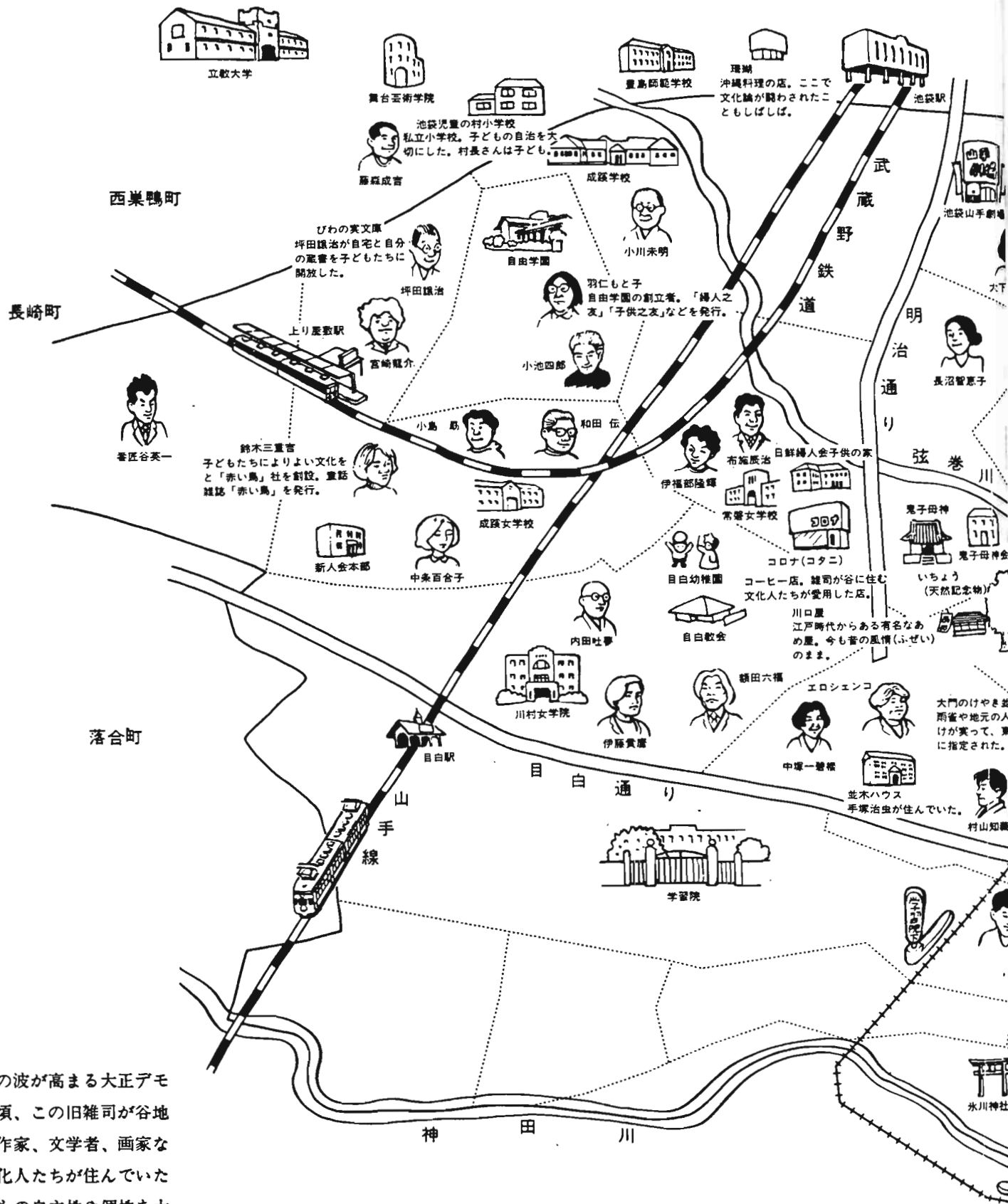
平成13年度実施地域史講座内容

- (1) 雑司が谷の魅力ー夏目漱石を中心に
12/2 講師：小森陽一東京大学教授
- (2) 雑司が谷を歩くー菊池寛邸跡ー霊園ー鬼子母神ー法明寺ー（明日館）
12/8 講師：多兎貞子さん

雑司が谷文化マップ (次頁参照)

の改訂版制作準備を兼ねた講座です。あなたにとって外せない雑司が谷の「場所」を教えてください。

雑司が谷



人間解放の波が高まる大正デモクラシーの頃、この旧雑司が谷地域には童話作家、文学者、画家など多くの文化人たちが住んでいた。また、子どもの自主性や個性を大切に教育を行った私立学校が建てられ、雑誌社があり、若い文学青年たちにとって「魅力的な地域」だったと言われていた。地図を手にも実際に歩いてみよう。

文化マップ

子ども文化のふるさと



藤谷直村
 宇陀児
 中西悟堂
 岩崎 興

力行社
 学生の無料宿泊保護施設

一番会診療所
 済生会高田診療所

王子電車
 一有会託児所

法明寺
 聖勞母子ホーム

東洋音楽学校

本教寺
 雑司が谷霊園

雑司が谷霊園
 夏目漱石、竹久夢二などの墓がある。雨雀はこの墓地内を散歩するのが日課になっていた。

岡田三郎

東京聖勞院

萬葉軒
 中藤せげ屋、秋田雨雀の「支那そばのおじさん」という散文に登場する。

異人館とハイゼの原
 学習院の教師だったドイツ人ハイゼが住んでいた。こゝと呼ばれた。

秋田雨雀
 鎌倉

精向亭
 鎌倉、茗荷屋とともに文化人たちがよく会合をした料亭

宝城寺
 清立院
 尼寺。雨雀の小説「尼の風呂」の舞台。

旧宣教師館
 雑司が谷学院
 雑司が谷幼稚園

鈴之家
 雑司が谷墓地の並びの茶屋
 竹久夢二
 忌(9月1日)がしばしば行われた。

茗荷屋
 木々の努力と働きが京都の天然記念物

本納寺
 雨雀の墓がある。ここで彼は仏教講話をした。

日本女子大寄宿舍
 山田清三郎

雑司が谷教会
 若山喜志子
 塚田空穂

新興仏教青年同盟
 本浄寺

中野秀人
 藤森秀夫

原 久一郎
 大泉黒石

文芸春秋社
 三角 寛
 橋爪 寛

若山喜志子
 塚田空穂

日光会ホーム
 日本盲人図書館
 東京盲学校

金子篤園
 金泉院

横生院
 安部磯雄

日本女子大

小石川区

日光会ホーム
 日本盲人図書館
 東京盲学校

金泉院

安部磯雄

日本女子大

小石川区

日光会ホーム
 日本盲人図書館
 東京盲学校

雨取院

安部磯雄

小石川区

小石川区

日光会ホーム
 日本盲人図書館
 東京盲学校

マップにある人物や情報は、検索コーナーで簡単な紹介をしています。

来館者の声（その2）

窪島誠一郎講演会 「生と死の画家たち」

昨年は東京文化財ウィーク参加事業として、「岡野誠、戦地からの絵てがみ展」と長野県上田市にある「無言館」館主・窪島誠一郎さんに上記のタイトルで講演をしていただきました。前号に引き続き、今回は講演会のアンケートからご紹介します。（2001.10.20（土）実施）

◆久々にきく心のこもった内容でした。無言館には是非いきたいとかねがね思っていました。（区内高松，66歳，S・Mさん）

◆戦中派の私は無言館と聞くだけで涙が出てしまふ。開会20分前、長身の講師が現れる。水上勉氏の子息と聞いていたが、面ざしや雰囲気似ていられる。長野の山の中で生活しておられて、秋の陽の匂いが漂っているようでした。題名にあるように、人の生と死のお話で涙が止まりませんでした。

私は日赤の看護婦で戦時中招集されて海軍病院に勤務し、多くの若くして死んだ人を見てきました。近くに航空隊（海軍）があり、16歳から24・5歳の兵士たちが沖縄をめざして出撃して帰らぬ人となりました。泣いて泣いて思い出しては泣きました。生命の尊さ、一日でも生きたいと云つつ死んだ村山（槐多）さんの言葉。（命が）余りにも軽々しく扱われた時代を思い出させる会でした。（巣鴨，76歳，Y Oさん）



◆かねてから無言館の設立の趣旨を読み、いつか訪れたいと思っていたとき、偶然に本講演会開催を知り、TELして出席のお許しを得ました。本日先生のお話を聞き、戦中派としてまた多少画をたしなむ者として本当に感動しました。有り難うございました。（北大塚，72歳，ATさん）
◆いのちというものについて改めて考えさせられました。（北大塚，44歳，S・Sさん）

◆まず感動いたしました事は窪島先生が定時より早くご出席していらっしゃいました。お話も謙虚で誠実でそして何よりも正直なお方。私はテッサン館、無言館に5年前に参りました。又もう一度是非参りたいと思います。先生の素晴らしさに心から感動、尊敬の念でいっぱいでございます。（板・中台，78歳，M・Aさん）

◆窪島氏のお話を直接聞かせていただき、「魂のリレー」という熱い心情を感じさせていただきました。窪島氏と村山槐多、住民の保存運動で残された宣教師館そして此処に集まった方々、私もこの場に入れていただいた幸せを感じました。けれど窪島氏の話には多くのことを感じましたので、意見がまとまらず重い荷物をいただいたまま帰ります。（中央区佃，49歳KFさん）



◆静かな情熱をもって話される信濃テッサン館無言館の成り立ち、美しい自然に抱かれる両館に是非行ってみたいものです。窪島誠一郎様のお話に感銘を受けました。（駒込，A・Iさん）

◆素晴らしかったです。チラシを見て、はじめ意外な気持ちでしたが、来てすべてが繋がりました。一生わすれません。企画力に脱帽です。（新座市石神，43歳，C・Yさん）

当日参加された83名の半数は戦争を体験された方でした。練馬区立美術館、板橋区立美術館飛鳥山の資料館でポスターを見たといって区外からも大勢のかたが参加してくださいました。

*無言館の画集、信濃テッサン館関係書、ご覧になりたいかた係員に声をかけてください。

【平成14年度予定】

春 … 「秋田雨雀の日記から」

雨雀の交友関係から明治末期・大正期の雑司が谷の様子を探る

秋 … 雑司が谷を歩くII

*日程・講師等の詳細は広報としまか係員へ

編集後記

小森先生は「雑司ヶ谷霊園は故郷を捨てた人の墓である」という仮説のもとに、雑司が谷の魅力をお話してくださいました。大正時代、早稲田が近いこともあって学者・学生が多く移り住んだといひます。謎解きは始まったばかりです。（文責 浜地）